

# オロモ語の複合時制について\*

乾秀行 ( 山口大学 )

キーワード : オロモ語、完結相、非完結相、複合時制、語彙アスペクト

## 0 始めに

本稿の目的は、オロモ語のテンス・アスペクト体系のうち、複合時制と呼ばれている形式を取り上げ、アスペクト的な対立軸がある点を指摘することである。オロモ語は多くの地域で話されており、方言分類としては西のウォレガ方言、中央のショア方言及びアルシ方言、東のハラール方言、さらに南のボレナ方言などに大別される。本稿はアルシ方言およびショア方言のインフォーマント<sup>1</sup>を中心に調査したが、確かに形態的な違いはあるにも関わらず、オロモ語の本質的部分として本稿で議論する対立軸は複数の方言 ( ウォレガ方言やハラール方言 ) においても認められた。したがって本稿を単に方言レベルの特徴として位置づけるのではなく、オロモ語全体として位置づけたい。なぜなら日本語でも形態的な方言差がいろいろあ

\*本稿のデータは 1999 年 8 月中旬から 1999 年 10 月下旬の間の約 2 ヶ月あまりにエチオピア連邦民主共和国国内のアッサラ市 ( アルシ方言の中心的都市 ) 内で行った調査による。同市内在住のオロモ語話者である Taaddasa Anbasse 氏と Taammiruu Shankooruu 氏を中心に多くの方にインフォーマントになっていただいた。感謝の意を申し上げたい。本稿で用いる ( 時間表現に関わるモデルを除く ) 省略記号は次のとおりである。nom : 主格、acc : 対格、gen : 属格、dat : 与格、instr : 具格、loc : 所格、abl : 奪格、poss : 所有代名詞、pass : 受動、1 : 1 人称、2 : 2 人称、3 : 3 人称、sg : 単数、pl : 複数、m : 男性、f : 女性、pf : 完了、prs : 現在 ( ・未来 )、pst : 過去、pfv : 完結相、impfv : 非完結相。またオロモ語の正書法と音価との対応関係は、ph=[p'], x=[t'], c=[tʃ'], q=[k'], dh=[dʒ], j=[ɟ], ch=[tʃ], sh=[ʃ], y=[j] となる。なお本稿は平成 10 年 ~ 11 年度科学研究費奨励研究 ( A ) 「オロモ語の動詞構造の解明とコーパスのデータベース化」( 課題番号 10710253 ) による研究の成果の一部である。

<sup>1</sup>アッサラ市はアルシ方言の中心的都市にも関わらず、政治的・経済的理由により別の方言のアイデンティティを持ったインフォーマントも多くいる。例えばインフォーマントの一人は、祖父母が政治的理由によりショア地方からアルシ地方に強制的に移住させられたために、生まれた所も暮らした所もすべてアルシ方言地域であるにも関わらず、ショア方言話者というアイデンティティをもち続けている。

るにも関わらず、共時レベルではその機能に本質的差がないからである。他言語との言語接触などに起因する方言レベルでの独自の発達によって、形態的な方言差がどんなに大きくなろうとも、オロモ民族がアイデンティティを保つのは、その基盤として、例えばここで取り上げるテンス・アスペクト体系に関して、民族が時間をどう認識し、それをどう言語化していくのかという点において、方言間で本質的に違いがないからであろう。なおテンス・アスペクト体系の全貌を方言差も含めて明らかにすることは本稿の目的を越えるものであり、今後の課題である。

## 1 手法

Comrie (1976) などで議論されているように、個別言語のテンス・アスペクト体系は複雑で、たとえ体系的に似ていたり、同じカテゴリーが存在していても実際には微妙に異なっており、個別言語内部の言語的価値が異なる。系統的に同じとされる印欧語においてすらその歴史的発達の仕方は多様であり、おいそれと単純比較ができない。ましてや個別の動詞の語彙アスペクト<sup>2</sup>にまで比較検証しようとするならその多様性に圧倒されることになる。Dahl (1985) に言語類型論的な研究がある<sup>3</sup>が、表面上の形式の違いは浮き彫りになったとしても、個別言語の言語的価値が明らかになっているとは到底言えない。それはこの分野の言語類型論的方法論がまだまだ未開拓であることを証明している。ところが金子 (1995) はこの難解な試みに挑戦している。人間、いや民族が時間をどのように認知しているかを突き止めるために、動詞の語彙アスペクト別に詳細に分類し、日本語のテンス・アスペクト体系を明らかにしている。それは諸言語の時間表現の多様性を類型論的に比較するための基礎的な予備作業として位置づけ、日本語の時間表現のパターンを記述しているのであり、個別言語レベルでの時間表現のもつ構造内的な言語価値を明らかにしようとする試みである。なお語彙アスペクトとして20の分類がされている。これは少なくとも日本語を記述する上で必要と思われる分類基準である。

ところで本稿はオロモ語のテンス・アスペクト体系の中で複合時制と呼ばれている形態にしばってその本質を明らかにしようとする試みである。

<sup>2</sup>アクチオンズアルトと呼ばれてきたものと同義である。

<sup>3</sup>オロモ語も取り上げられている。

その際語彙アスペクトの違いを表すために金子 (1995) の分類を用いるが、本稿の目的はあくまでオロモ語の複合時制の記述の域を出るものではなく、究極の言語類型論的研究を直接目指したものではない。ただし言語普遍を求めるために認知言語学的基準で提案されたこの語彙アスペクトの分類は、個別言語の詳細な記述をする際に1つの道先案内人の役割を演じてくれるものと思われる。確かにこの分類基準がオロモ語という個別言語の時間表現を記述する上で有効であるかどうかも未知数である。しかし表面的な形態上のテンス・アスペクトの体系の記述にとどまるならば、オロモ語の中での時間表現のもつ構造内的な言語価値は見えてこない。また同時に表面的な形態上の違いに基づいた記述から取り出された特徴を寄せ集めた言語類型論的なアプローチから個別言語の記述にとって有益な結果が導き出されるとは思えない。以上のような理由からこの分類基準を用いて、オロモ語の複合時制を記述し、その本質を明らかにしたい。なお紙面の都合上、ここで用いる時間表現のモデルは最小限の説明にとどめるので詳細は金子 (1995) を参照されたい。

## 2 先行研究

オロモ語の記述研究は近年いくつかなされている。しかしたいい文法の概略を記述することを第一の目的としているため、詳細な検証があまりなされていないのが現状である。中にはかなりお粗末な記述も見受けられる。例えば Mardaasaa (1993) はオロモ語のテンス・アスペクトの形態的な違いを全く無視して、英語のカテゴリーを援用して無理矢理その枠の中に押し込めた解釈をしている。その分類によると、現在、過去、未来、現在完了、未来完了、過去完了、現在進行形、過去進行形、未来進行形、現在完了進行形、過去完了進行形が項目として立てられている。これはあくまで英語の分類を援用しているに過ぎず、オロモ語の側で形態的に現在と未来が区別されているわけでもなく、また過去完了と言われる形態は従属節中の形態が過去時制になるだけであり、過去完了という形態があるのではない。もっともこれは極端な例であり、多くの研究は形態に基づいた分類をしている。しかしそれらの分類においても本稿で取り扱う複合時制の記述に目を向けるとどれも不十分と言わざるを得ない。例えば Gamta (1989)

では現在・未来形、過去形、現在完了の3分類がされているだけで、複合時制に関しての記述がない。また Stroomer (1987) では複合時制として jira が継続相を表す点を指摘しているものの、本稿で問題にするようなアスペクト的対立に関しての言及は見られない<sup>4</sup>。Gragg (1976) には複合時制として本稿で論じる4つの形態の区別がされている。「行く (deem-uu)」という動詞を用いて説明すると、それは現在完了 (deemee jira)、過去完了 (deemee ture)、現在進行形 (deemaa jira)、過去進行形 (deemaa ture) の4つと記述されている。ちなみに比較的定評のある同じ著者の辞書、Gragg (1982) の中でこの4つの複合時制がどのように使われているかを調べるために、全例文とその英訳を抜き出して見たところ、deemaa jira に対しては現在進行形、deemee jira に対しては現在完了と過去進行形、deemaa ture に対しては過去進行形と過去と used to (習慣相)、deemee ture に対しては過去進行形と現在完了と過去と過去完了の英訳が充てられており、deemaa jira が現在進行形で一貫して表されている以外は、個々の動詞毎に異なった対訳がなされていることが分かった。当然対訳の英語の側の体系の問題も考慮しなければならないけれども、大切な点は本稿で取り扱うアスペクト的対立軸に関する説明が一切なされていないことである。さらに Ali & Zaborski (1990) でも、Gragg (1976) の同箇所の記述に基づいて、この deemaa jira と deemee jira の違いを現在継続形と現在完了と説明してはいるものの、それ以上の分析が試みられているわけではない。

一方 Tucho, Zorc & Barna (1996) はオロモ語の複合時制に関してテンスよりもアスペクトが重要である点を指摘している。

Tense (or time-marking) does not play a major role in the construction of an Oromo verb. (154)

オロモ語は未完了と完了に分かれ、未完了は「進行中の活動」、完了は「活動が終了している」と解釈している。しかしその説明は非過去と過去の形態の違いに基づいてなされており、テンスとアスペクトの混同が見

<sup>4</sup>Stroomer (1987) にはケニアで話されているボラナ方言などに過去を表す ture の形態が複合時制として働いていない点が指摘され、一般に複合時制は北の方言で発達していると書かれている。しかし西のウォレガ方言、中央のショア方言およびアルシ方言、東のハラル方言において本稿で取り扱うアスペクト的対立軸に基づく複合時制があり、一部の方言で発達しているというよりオロモ語全体に存在していると考えの方が自然である。

られる。また本稿で取り扱う複合時制に関しての記述では、deemeera が deemee jira の省略形である点を指摘し、その完了の性質を「完了した活動を表すアスペクト」として完結相であると説明している一方で、jira がつく複合時制は現在継続、ture がつく複合時制は過去完了といった説明がされており、オロモ語にとってアスペクト的対立が重要である点は指摘しているものの、全体として首尾一貫した説明が与えられているとは言い難い。

複合時制の非完結相の存在を指摘しているのは Owens (1985) である。東のハラール方言を記述したものであるが、jira と ture の時間副詞との共起関係についての言及をはじめ、複合時制が未完了である点を指摘している。しかし今度は逆に本稿で取り扱うもう一方の対立軸である完結相に関しての記述がない。

One of the most important positions of the verbal nouns is as complement to the verbs jir, jirat and tur where they form the incomplete compound tenses. (154)

以上見てきたように、管見のおよぶ限り、先行研究では複合時制のアスペクト的対立に関して正確に取り上げられているものはない。そこで本稿では deemaa jira と deemee jira という複合時制として解釈されている2つの形態を対象にし、オロモ語にとってそれがアスペクトの対立に基づいていることを明確に指し示すと同時に、詳細な語彙アスペクト毎の分類に従って、どちらの形態がより好まれるか(有標か無標か)について論ずる。

### 3 テンス・アスペクト体系概観

オロモ語の単純時制は形態的には非過去と過去の2つである。つまり非過去である形態は現在でも未来でも使うことができ、過去の形態と対立している。さらにそれにアスペクトの(あるいはモダリティー的な)要素が加わることで、いろいろな形態が発達しているものと見なすことができる。再び「行く(deem-uu)」という動詞を使って3人称単数男性の形態で説明すると、今回の調査で確かめられた形態は deemuuf ta'a、hin deema、deema、deemuufi、deemuuf jira、deemaa jira、deemeera、deemee jira、deemaa ture、

deemee ture、deeme の11である<sup>5</sup>。これらの形態が時間指示の副詞とどのように共起できるかを調査したところ、仮に「昨日 (kaleessa)」、「今朝 (ganama)」、「今 (amma)」、「後で (booda)」、「明日 (boru)」の5つの副詞を例に取り、基準時間を「今日の午後」とするならば、deemuuf ta'a と hin deema は「明日 (遠い未来)」<sub>J</sub>、deema と deemuufi は「今と後で (近い未来)」と明日<sub>J</sub>、deemuuf jira は「後で (近い未来)」<sub>J</sub>、deemaa jira は「今」<sub>J</sub>、deemeera は「昨日と今朝と今」<sub>J</sub>、deemee jira は「昨日と今朝」<sub>J</sub>、deemaa ture と deemee ture は「昨日と今朝」<sub>J</sub>、deeme は「昨日」と共起することが判明した。表にまとめると次のようになる。

deem-uu	kaleessa	ganama	amma	booda	boru
deemuuf ta'a	×	×	×	×	
hin deema	×	×	×	×	
deema	×	×			
deemuufi	×	×			
deemuuf jira	×	×	×		×
deemaa jira	×	×		×	×
deemeera				×	×
deemee jira			×	×	×
deemaa ture			×	×	×
deemee ture			×	×	×
deeme		×	×	×	×

deema が現在・未来形で、deema より表の上の形態は未来形を表すものと思われる。もっとも単純に未来時制というのではなく、モダリティーの要素が加わっていると考えの方が自然であろう。deema と deemuuf の違いもモダリティーに起因すると思われる。さて問題の複合時制であるが、時間指示の副詞との共起関係だけでは、deemee jira も deemaa ture も deemee ture もいずれも同じとなり、そのアスペクト的な振る舞いについて不明瞭なままである。ただし注目すべきは deemeera と deemee jira では共起できる副詞に差がある点である。deemeera に関しては現在完了という解釈が

<sup>5</sup> 今回中央方言であるショア方言およびアルシ方言のインフォーマントによって確かめられた形態である。方言差はかなり大きいことが予想されるので一般化することはできない。

一般にされている。さらに Gragg (1976) などにあるように、deemee jira > deemeeera のような歴史的音変化として説明がされている。しかしこの2つの形態は時間副詞の共起において異なっており、少なくとも共時的に機能的な違いに基づいて共存しているのである。

さて本稿では deema jira が現在の非完結相、deemee jira が現在の完結相と解釈する。つまり複合時制に関して動作が完結していない場合にはすべて deema jira となり、一方動作が完結している場合には deemee jira となるというのが大原則である。同様に過去の場合も、非完結相が deema ture となり、完結相が deemee ture となる。例えば beek-uu (知る) という動詞を例に複合時制を作ってみると次のようになる。

- (1) a. Inni balaa trafikaa beek-ee jir-a.  
 彼-nom 交通事故-acc 知る-pfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は(その)交通事故を知っている。」

- b. \*Inni balaa trafikaa beek-aa jir-a <sup>6</sup>  
 彼-nom 交通事故-acc 知る-impfv jir-3sg.m.prs  
 「\*彼は(その)交通事故を知りつつある。」

つまり「知る」という動詞の語彙アスペクトとの関係で、この場合複合時制は完結相の形態でしか使えないことがわかる。または walhiik-uu (離婚する)<sup>7</sup> という動詞でも次のようになる。

- (2) a. Nu walhiik-nee jir-ra  
 我々-nom 離婚する-pfv jir-1pl.prs  
 「我々は離婚している。」

<sup>6</sup>オロモ語の名詞組織は、対格が無標の基本形となり、他の格には何らかの格標示がある。つまり主格には有標の標識がつく。その他属格、与格、具格、場所格、奪格がある (nama 「人」: nama (base/acc)、namni (nom)、namaa (gen)、namaaf (dat)、namaatiin (instr)、namatti (loc)、namarraa (abl))。また jir-a は本来現在・未来形であるにも関わらず、本稿では現在を表す prs という省略形をつけているのは、この複合時制の場合、未来を表す可能性がないためである。

<sup>7</sup>wal が「一緒」という意味なので、通常複数で使われる。ただしインフォーマントによると単数でも可能である。

b. Nu walhiik-aa jir-ra  
 我々-nom 離婚する-impfv jir-1pl.prs  
 「我々は離婚している最中である。」

c. Nu walhiik-neerra  
 我々-nom 離婚する-1pl.prspf.  
 「我々は離婚している。」

つまり、離婚が成立しているのは完結相か現在完了であり、非完結相の形態は離婚が成立している場合には使えない。あえてわかりやすく説明すると非完結相が使える状況は、「現在法廷などで離婚調停の最中である」という意味の特殊な場合だけである。一方 (a.) と (c.) の違いは、前者が離婚歴があるという解釈が可能であるのに対して、後者は今も離婚している場合に限られる。

オロモ語の複合時制のこのアスペクト的対立は一貫して見られるものである。同時に動詞の語彙アスペクトによって無標の複合時制と有標の複合時制があることを想像するのは難しくない。つまり簡単に言えば、瞬間相の語彙アスペクトをもつ動詞では完結相が使われやすく、逆に継続相の語彙アスペクトをもつ動詞では非完結相が使われやすいのではないかということである。果たして本当にそのように説明できるのであろうか。そこでこの対立が、きめ細かな語彙アスペクト分類に基づいて、どのような有標・無標の違いを見せるかについて次章以降で議論することとする。

#### 4 語彙アスペクトの分類基準

この章では動詞の語彙アスペクト毎にこれらの複合時制の表す内的構造について詳細に吟味するためのモデルについて簡単に説明する。Comrie (1976) では一般的なアスペクトの分類として、まず完結相と非完結相に分かれ、非完結相は習慣相と継続相に分かれ、さらに継続相は非進行相と進行相に分かれるとされている。しかしそのような分類基準では形態上の違いに基づいた諸言語のテンス・アスペクト体系を記述することはできても、個別の動詞の語彙アスペクトの違いによるアスペクト形態素の有標・無標の記述までは手に負えない。そこでもっときめ細かな分類が必要にな



る。ここでは日本語の動詞の語彙アスペクトにおいて金子 (1995) が提案した20の語彙アスペクトのタイプを援用してオロモ語のアスペクト対立について議論することにする。

動詞の語彙アスペクトは前状況、表示状況、後状況の三状況連鎖で規定される。

#### 前状況 [前枠] 表示状況 [後枠] 後状況

前状況は表示状況の前提を、後状況はその結果や含意を表示する。表示状況の前後に位置する枠は、それぞれ前状況と後状況との境を作り、開いていたり閉じていたりする。枠が開いているとは、その時間帯が表示状況に属していないことを、またそれが閉じているとは、枠の時間帯が表示状況に属していることをいう。(139)

表示状況は基本的に状態性、継続性、瞬間性の三つの類型を持つ。それぞれは前状況や後状況との関係で開いているのか、それとも閉じているのかという点で分類される。また動詞が行為性 (act)<sup>8</sup>、結果性 (res)<sup>9</sup>、漸次性 (gr)<sup>10</sup>、効果性 (eff)<sup>11</sup>などのチェック項目に従って細分化される。そのような操作の結果、提案されたのが以下の20の分類である。この分類に基づいてオロモ語の動詞の複合時制のアスペクト的な振る舞いについて次章から順次検証していくこととする。

#### 状態相

\*\*V(dur)\*\* : ある、できる

\*#V(dur)#\* : 含む

\*V(dur)\* : ある

#### 状態継続相

\*V(dur)# : 感じる

\*V(dur(act))# : 信じる

<sup>8</sup>表示状況が行動的な過程を表す。

<sup>9</sup>後状況で結果の状態を表す。

<sup>10</sup>表示状況が漸次的な過程を表す。

<sup>11</sup>後状況に行動の効果の残存を表す。

## 継続相

#V(dur)# : 鳴る、雨が降る

#V(dur(act))# : 走る

#V(dur(act))#eff : 書く

#V(dur)\*res : 散る、溶ける

#V(dur(act))\*res : 着る

#V(dur(act))\*eff : 脱ぐ、植える

#V(dur(gr))\*res : 沈む、太る

#V(dur(gr.act))\*res : 近づく、登る

#V(dur(gr.act))\*eff : 集める、変える

## 瞬間相

#V(min)# : 会う

#V(min(act))# : 訪れる、打つ

#V(min(act))#eff : 破る、落とす

#V(min)\*res : 混じる、始まる

#V(min(act))\*res : 借りる

#V(min(act))\*eff : 届ける、折る、拾う<sup>12</sup>

## 5 語彙アスペクト別の複合時制の有標・無標

## 状態相

**\*\*V(dur)\*\*** (状態相)

「ある (jir-uu)」 「できる (danda'-uu)」

<sup>12</sup>記号の読みは以下の通りである。また動詞の例は5章以降で取り上げるオロモ語の動詞と対応している。

#V... 状況Vは左に閉じている

\*V... 状況Vは左に開いている

...V# 状況Vは右に閉じている

...V\* 状況Vは右に開いている

V(dur) 表示状況Vは持続的である

V(min) 表示状況Vは瞬間的である

V(dur(act)) 表示状況Vは持続的かつ行為的である

V(dur(gr)) 表示状況Vは持続的かつ漸次的である

res 表示状況Vの結果を表示する状況

eff 表示状況Vの効果を表示する状況

このタイプの動詞は、恒真的で非時間的な表示状況を示すもので、「犬は動物である」のような文である。オロモ語の「ある (jir-uu)」は複合時制が文法的に不可能である。またこのような文は通常はコピュラの dha を使って表現し、「ある (jir-uu)」は使わない。

- (3) a. Saree-n bineensa dha  
犬-nom 動物-3sg.m copula  
「犬は動物である。」
- b. \*Saree-n bineensa jir-a  
犬-nom 動物-3sg jir-3sg.m.prs  
「犬は動物である。」
- c. \*Saree-n bineensa jir-aa jir-a
- d. \*Saree-n bineensa jir-ee jir-a

一方「できる (danda'-uu)」の場合はインフォーマントによると完結相が可能らしい。また非完結相は「少しずつ (suuta suuta)」のような漸次的表現があると可能だが、一般に不可能である。ところでこの文の意味をよく吟味すると恒真的な「能力や性能が一般に備わっている状態」というより、「テストで答案ができてい」のような結果性の瞬間相と解釈するのが適切である。同様の例は「準備ができる」などである。したがって結局このタイプの状態相の動詞は一般に複合時制を作ることができないといえる。

- (4) a. Inni afaan oromo danda'-a.  
彼-nom オロモ語-acc できる-3sg.m.prs  
「彼はオロモ語ができる。」
- b. \*Inni afaan oromo danda'-aa jir-a  
彼-nom オロモ語-acc できる-impfv jir-3sg.m.prs  
「彼はオロモ語ができる途中である。」
- c. Inni afaan oromo danda'-ee jir-a  
彼-nom オロモ語-acc できる-pfv jir-3sg.m.prs  
「彼はオロモ語ができてしまっている。」

- d. Inni ciree qophees-uu danda'-ee jir-a <sup>13</sup>  
 彼-nom 朝食-acc 準備する-inf できる-pfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は朝食の準備ができています。」

**\*#V(dur)\*** (部分状態相)

「含む (of keessaa qab-uu)」<sup>14</sup>

このタイプの動詞は、表示状況からある部分状況を切り取って状態の持続を表す。「含む (of keessaa qab-uu)」の複合時制は、非完結相も完結相もどちらも不可能である。したがってこのタイプの部分状態相の動詞は複合時制を作ることができない。

- (5) a. Burtukaan-ni vitamini of keessaa qab-a  
 みかん-nom ビタミン-acc 含む-3sg.m.prs  
 「みかんはビタミンを含む。」
- b. \*Burtukaan-ni vitamini of-keessaa qab-aa jir-a  
 みかん-nom ビタミン-acc 含む-impfv jir-3sg.m.prs  
 「みかんはビタミンを含みつつある。」
- c. \*Burtukaan-ni vitamini of keessaa qab-ee jir-a  
 みかん-nom ビタミン-acc 含む-pfv jir-3sg.m.prs  
 「みかんはビタミンを含んでしまっている。」

**\*V(dur)\*** (左右開存在相)

「ある、いる (jir-uu)」

「ある、いる (jir-uu)」は文法的に複合時制を作ることができない。したがってこのタイプの状態相の動詞は複合時制を作ることができない。

- (6) a. Kitaab-ni jir-a  
 本-nom ある-3sg.m.prs  
 「本がある。」

<sup>13</sup> 日本語訳は完結相と非完結相のニュアンスを出すことを念頭に置いている。なかには日本語として不自然な表現もある。または日本語訳のせいで別の意味が付加されてしまう場合もある。

<sup>14</sup> of は「自身」、keessaa は「中に」、qab-uu は「持つ」の意。

b. \*Kitaab-ni jir-aa jir-a

c. \*Kitaab-ni jir-ee jir-a

以上より、状態相の動詞はいずれも非完結相、完結相とも複合時制を作ることができない。

状態継続相

\*V(dur)# (左開右閉状態継続相)

「感じる (dhanga'am-uu)」

「感じる (dhanga'am-uu)」の非完結相は「少しずつ (suuta suuta)」のような漸次的表現を使って言えないこともないが、一般には不可能である。また完結相も不可能である。したがってこのタイプの状態継続相の動詞は複合時制を作ることができない。

(7) a. Qor-ri natti dhanga'am-a  
寒さ-nom 私-loc 感じる-3sg.m.prs  
「私は寒く感じる。」

b. \*Qor-ri natti dhanga'am-aa jir-a  
寒さ-nom 私-loc 感じる-impfv jir-3sg.m.prs  
「私は寒く感じつつある。」

c. \*Qor-ri natti dhanga'am-ee jir-a  
寒さ-nom 私-loc 感じる-pfv jir-3sg.m.prs  
「私は寒く感じてしまっている。」

\*V(dur(act))# (左開右閉行為性状態継続相)

「信じる (aman-uu)」

「信じる (aman-uu)」の非完結相は不可能である。一方完結相は「現時点で改宗して、例えばイスラム教を信じている」ことが含意されているという解釈ならば可能である。

(8) a. Inni amantaa kuristaanaan aman-a  
彼-nom キリスト教-acc 信じる-3sg.m.prs  
「彼はキリスト教を信じる。」

- b. \*Inni amantaa kuristaanaan aman-aa jir-a  
 彼-nom キリシト教-acc 信じる-impfv jir-3sg.m.prs  
 「私はキリシト教を信じつつある。」

- c. Inni amantaa kuristaanaan aman-ee jir-a  
 彼-nom キリシト教-acc 信じる-pfv jir-3sg.m.prs  
 「彼はキリシト教を信じ終わっている。」

上記のような特殊な例でなくても、非完結相は「少しずつ (suuta suuta)」のような漸次的表現と共起すると若干言えるかもしれないが、一般に不可能である。一方完結相は可能で、その場合「彼を今は信じていない」ことが含意されることになる。したがってこのタイプの状態継続相の動詞の複合時制は非完結相が不可能なのに対して、完結相は条件付きで可能な場合があるといえる。

- (9) a. Inni isii aman-a  
 彼-nom 彼女-acc 信じる-3sg.m.prs  
 「彼は彼女を信じる。」
- b. ?Inni isii suuta suuta aman-aa jir-a  
 彼-nom 彼女-acc 少しずつ 信じる-impfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は彼女を少しずつ信じつつある。」
- c. \*Inni isii aman-aa jir-a  
 彼-nom 彼女-acc 信じる-impfv jir-3sg.m.prs  
 「私は彼を信じつつある。」
- d. Inni isii aman-ee jir-a  
 彼-nom 彼女-acc 信じる-pfv jir-3sg.m.prs  
 「私は彼を信じ終わっている。」

以上より、状態継続相の動詞の非完結相は一般に不可能であるのに対して、完結相は、行為性のある動詞に限り、条件付きで可能となる場合があるといえる。

## 継続相

#V(dur)# (左右閉継続相)

「 鳴る (qillis-uu) 」

「 鳴る (qillis-uu) 」の非完結相は可能である。一方完結相は後状況において痕跡がない (結果性も効果性もない) ので不可能となる。

(10) a. Bilbil-i qillis-a

電話-nom 鳴る-3sg.m.pres

「 電話が鳴る。」

b. Bilbil-i qillis-aa jir-a

電話-nom 鳴る-impfv jir-3sg.m.prs

「 電話が鳴っている。」

c. \*Bilbil-i qillis-ee jir-a

電話-nom 鳴る-pfv jir-3sg.m.prs

「 電話が鳴り終わっている。」

また「 雨が降る (rob-uu) 」でも非完結相が可能であるのに対して、完結相の方は、例えば「 地面が濡れている 」という状況でも、因果関係が明瞭でないために、一般に不可能である。したがってこのタイプの継続相の動詞は複合時制は非完結相が可能なのに対して、完結相は後状況に何もないので一般に不可能であるといえる。

(11) a. Rob-a

雨が降る-3sg.m.prs

「 雨が降る。」

b. Amma rob-aa jir-a

今 雨が降る-impfv jir-3sg.m.prs

「 今雨が降っている。」

c. \*Rob-ee jir-a

雨が降る-pfv jir-3sg.m.prs

「 雨が降り終わっている。」

## #V(dur(act))# (左右閉行為性継続相)

「走る (fig-uu)」

「走る (fig-uu)」の非完結相は可能である。一方完結相は、例えば何らかの痕跡(例えば「汗をかいている」)があれば多少言えるかもしれないが、一般に結果性がないので不可能である。したがってこのタイプの継続相の動詞は複合時制は非完結相が可能なのに対して、完結相は一般に不可能であるといえる。

- (12) a. Inni fig-a  
 彼-nom 走る-3sg.m.prs  
 「彼は走る。」
- b. Inni fig-aa jir-a  
 彼-nom 走る-impfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は走っている。」
- c. \*Inni fig-ee jir-a  
 彼-nom 走る-pfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は走ってしまっている。」

## #V(dur(act))#eff (左右閉行為性効果性継続相)

「書く (barress-uu)」

「書く (barress-uu)」は非完結相および完結相とも可能であるが、継続相の動詞のためか、インフォーマントによると非完結相の方が使われやすい。なお日本語の「手紙が書いてある」のような表現はオロモ語ではできない。「手紙」に主題を移すには受動態にすればよいが、その場合完結相は可能であるけれども、今度は非完結相が不可能となる。非完結相では「動作主が書いている」という行為の方に話題の中心があるのに対して、受動態では「書かれた対象である手紙」が主題であるからである。したがってこのタイプの継続相の動詞の複合時制は非完結相および完結相とも可能であるが、非完結相の方が使われやすい。なお継続相なのに完結相が使えるのは「効果性」による。



- (13) a. Inni xalaaya barress-a  
 彼-nom 手紙-acc 書く-3sg.m.prs  
 「彼は手紙を書く。」
- b. Inni xalaaya barress-aa jir-a  
 彼-nom 手紙-acc 書く-impfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は手紙を書いている。」
- c. Inni xalaaya barress-ee jir-a  
 彼-nom 手紙-acc 書く-pfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は手紙を書いてしまっている。」
- d. Xalaaya-n (isaatiin) barreff-am-ee jir-a  
 手紙-nom ( 彼-instr ) 書く-pass-pfv jir-3sg.m.prs  
 「手紙は ( 彼によって ) 書かれてしまっている。」
- e. \*Xalaaya-n (isaatiin) barreff-am-aa jir-a  
 手紙-nom ( 彼-instr ) 書く-pass-impfv jir-3sg.m.prs  
 「手紙は ( 彼によって ) 書かれつつある。」

#V(dur)\*res ( 左閉右開結果性継続相 )

「散る (harcaas-uu)」「溶ける (baq-uu)」

「散る (harcaas-uu)」は非完結相および完結相とも可能である。ただし継続相の動詞のためか、インフォーマントによると非完結相の方が使われやすい。

- (14) a. Bubbee-n ilillii-n harcaas-a  
 風-instr 花-nom 散る-3sg.m.prs  
 「風で花は散る。」
- b. Bubbee-n ilillii-n harcaas-aa jir-a  
 風-instr 花-nom 散る-impfv jir-3sg.m.prs  
 「風で花が散っている。」

- c. Bubbee-n ilillii-n harcaas-ee jir-a  
 風-instr 花-nom 散る-pfv jir-3sg.m.prs  
 「風で花が散ってしまっている。」

同様に「溶ける (baq-uu)」は非完結相および完結相とも可能である。やはりインフォーマントによると非完結相の方が使われやすい。したがってこのタイプの継続相の動詞の複合時制は非完結相および完結相とも可能であるが、非完結相の方が使われやすい。なお継続相なのに完結相が使えるのは「結果性」による。

- (15) a. baradaa-n ni baq-a  
 氷-nom focus 溶ける-3sg.m.prs  
 「氷が溶ける。」
- b. baradaa-n baq-aa jir-a  
 氷-nom 溶ける-impfv jir-3sg.m.prs  
 「氷が溶けている。」
- c. baradaa-n baq-ee jir-a  
 氷-nom 溶ける-pfv jir-3sg.m.prs  
 「氷が溶けてしまっている。」

**#V(dur(act))\*res (左閉右開行為性結果性継続相)**

「着る (uffach-uu)」

「着る (uffach-uu)」は非完結相および完結相とも可能である。ただし継続相の動詞のためか、非完結相の方が使われやすい。ところでオロモ語の複合時制は、日本語の場合のように一つの形態で非完結相と完結相の両方を表すような両義性はなく、非完結相と完結相の形態上の区別があるため、どちらも明示的に表せる。逆に完結相を示すための「すでに」や「もう」に相当する時間副詞が存在しないようである。したがってこのタイプの継続相の動詞の複合時制は非完結相および完結相とも可能であるが、非完結相の方が使われやすい。なお継続相なのに完結相が使えるのは「結果性」による。

- (16) a. Ani uffata-n uffadh-a  
私-nom 服-acc-1sg 着る-1sg.prs  
「私は服を着る。」
- b. Ani uffata uffach-aa-n jir-a  
私-nom 服-acc 着る-impfv-1sg jir-1sg.prs  
「私は服を着ている。」
- c. Ani uffata uffadh-ee-n jir-a <sup>15</sup>  
私-nom 服-acc 着る-pfv-1sg jir-1sg.prs  
「私は服を着てしまっている。」

#V(dur(act))\*eff (左閉右開行為性効果性継続相)

「脱ぐ (baafach-uu)」 「植える (dhaab-uu)」

「脱ぐ (baafach-uu)」は非完結相および完結相とも可能である。ただし継続相の動詞のせいか、非完結相の方が使われやすい。なお「服が脱いである」のような表現はオロモ語に存在しない。一方受動態により主題を「服」にすると、完結相は可能だが、非完結相は不可能である。非完結相では「動作主が脱いでいる」という行為の方に話題の中心があるのに対して、受動態では「脱いだ対象である服」が主題であるからである。

- (17) a. Ani uffata-n baafadh-a  
私-nom 服-acc-1sg 脱ぐ-1sg.prs  
「私は服を脱ぐ。」
- b. Ani uffata baafach-aa-n jir-a  
私-nom 服-acc 脱ぐ-impfv-1sg jir・1sg.prs  
「私は服を脱いでいる。」
- c. Ani uffata baafadh-ee-n jir-a  
私-nom 服-acc 脱ぐ-pfv-1sg jir-1sg.prs  
「私は服を脱いでしまっている。」

<sup>15</sup> 1 人称単数と 3 人称単数の動詞の人称語尾は同じのため、区別するため 1 人称単数には直前の単語の語末に -n がつく。

d. Uffan-ni kuni baafat-am-ee jir-a  
服-nom この 脱ぐ-pass-pfv jir-3sg.m.prs  
「この服が脱がれている。」

e. \*Uffan-ni kuni baafat-am-aa jir-a  
服-nom この 脱ぐ-pass-impfv jir-3sg.m.prs  
「この服が脱がれつつある。」

同様に「植える (dhaab-uu)」も非完結相および完結相とも可能である。やはり非完結相の方が使われやすい。したがってこのタイプの継続相の動詞の複合時制は非完結相および完結相とも可能であるが、非完結相の方が使われやすい。なお継続相なのに完結相が使えるのは「効果性」による。

(18) a. Inni biqiltuun dhaab-a  
彼-nom 木-acc 植える-3sg.prs  
「彼は木を植える。」

b. Inni biqiltuun dhaab-aa jir-a  
彼-nom 木-acc 植える-impfv jir-3sg.prs  
「彼は木を植えている。」

c. Inni biqiltuun dhaab-ee jir-a  
彼-nom 木-acc 植える-pfv jir-3sg.prs  
「彼は木を植えてしまっている。」

#V(dur(gr))\*res ( 左閉右開漸次性結果性継続相 )

「沈む (bishaan lix-uu)」<sup>16</sup>「太る (furdach-uu)」

「沈む (bishaan lix-uu)」は非完結相および完結相とも可能である。ただし継続相であるにもかかわらず、今度は完結相の方が使われやすい。

(19) a. Holaa-n bishaan lix-a  
船-nom 沈む-3sg.m.prs  
「船が沈む。」

<sup>16</sup>bishaan は「水に」lix-uu は「入る」の意。

- b. Holaa-n bishaan lix-aa jir-a  
 船-nom 沈む-impfv jir-3sg.m.prs  
 「船が沈んでいる。」
- c. Holaa-n bishaan lix-ee jir-a  
 船-nom 沈む-pfv jir-3sg.m.prs  
 「船が沈んでしまっている。」

また「太る (furdach-uu)」では完結相は可能であるのに対して、非完結相は「少しずつ (suuta suuta)」のような漸次的表現が共起することで自然な表現となる。この場合も完結相の方が使われやすい。これは非完結相を表すためには漸次的表現の副詞を必要としていることを示している。なお「沈む (bishaan lix-uu)」に比べて、非完結相の許容度が落ちている。さらにインフォーマントによると過去の非完結相はあり得ない。したがってこのタイプの継続相の動詞の複合時制は完結相は可能であるが、非完結相は漸次的表現の副詞を要求するといえる。

- (20) a. Isiin ni furdat-ti  
 彼女-nom focus 太る-3sg.f.prs  
 「彼女は太る。」
- b. Isiin suuta suuta furdat-aa jir-ti  
 彼女-nom 少しずつ 太る-impfv jir-3sg.f.prs  
 「彼女は少しずつ太っている。」
- c. Isiin furdat-tee jir-ti  
 彼女-nom 太る-pfv jir-3sg.f.prs  
 「彼女は太ってしまっている。」
- d. \*Isiin furdat-aa tur-te  
 彼女-nom 太る-impfv tur-3sg.f.pst  
 「彼女は太りつつあった。」

#V(dur(gr.act))\*res (左閉右開漸次性行為性結果性継続相)

「近づく (dhi'ach-uu)」 「登る (bah-uu)」

「近づく (dhi'ach-uu)」は非完結相および完結相とも可能であるが、完結相の方が使われやすい。ただし非完結相の場合、漸次的表現の副詞がある方が自然である。なお過去の非完結相は一般に不可能である。

- (21) a. Inni Taaddassa-tti dhi'at-a  
 彼-nom ターダッサ-loc 近づく-3sg.m.prs  
 「彼はターダッサに近づく。」
- b. Inni Taaddassa-tti dhi'at-aa jir-a  
 彼-nom ターダッサ-loc 近づく-impfv jir-3sg.m.prs  
 「彼はターダッサに近づいている。」
- c. Inni Taaddassa-tti dhi'at-ee jir-a  
 彼-nom ターダッサ-loc 近づく-pfv jir-3sg.m.prs  
 「彼はターダッサに近づいてしまっている。」
- d. \*Inni Taaddassa-tti dhi'at-aa tur-e  
 彼-nom ターダッサ-loc 近づく-pfv tur-3sg.m.pst  
 「彼はターダッサに近づいていた。」

同様に「登る (bah-uu)」でも非完結相および完結相とも可能である。ただし完結相の方が使われやすい。なお過去の非完結相は可能なようである。「近づく (dhi'ach-uu)」に比べて、行為性が強いという判断をインフォーマントがして、非完結相の許容度が上がったものと思われる。したがってこのタイプの継続相の動詞の複合時制は完結相および非完結相とも可能であるが、完結相の方が使われやすい。

- (22) a. Inni gaara Cilaloo bah-a  
 彼-nom チラロー山-acc 登る-3sg.m.prs  
 「彼はチラロー山に登る。」
- b. Inni gaara Cilaloo bah-aa jir-a  
 彼-nom チラロー山-acc 登る-impfv jir-3sg.m.prs  
 「彼はチラロー山に登っている。」

c. Inni gaara Cilaloo bah-ee jir-a  
 彼-nom チラロー山-acc 登る-pfv jir-3sg.m.prs  
 「彼はチラロー山に登ってしまっている。」

d. Inni gaara Cilaloo bah-aa tur-e  
 彼-nom チラロー山-acc 登る-impfv tur-3sg.m.pst  
 「彼はチラロー山に登っていた。」

#V(dur(gr.act))\*eff ( 左閉右開漸次性行為性効果性継続相 )

「集める (walitti qab-uu)」<sup>17</sup> 「変える (jijjir-uu)」

「集める (walitti qab-uu)」は非完結相および完結相とも可能である。ただし完結相の方が使われやすい。また過去の非完結相も可能である。「手紙が集めてある」のような表現はオロモ語に存在しない。「手紙」を主題にするために受動態にすると、完結相は可能だが、非完結相は使いにくい。非完結相では「動作主が集めている」という行為の方に話題の中心があるのに対して、受動態では「集めた対象である手紙」が主題であるからである。

- (23) a. Inni xalaaya walitti qab-a  
 彼-nom 手紙-acc 集める-3sg.m.prs  
 「彼は手紙を集める。」
- b. Inni xalaaya walitti qab-aa jir-a  
 彼-nom 手紙-acc 集める-impfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は手紙を集めている。」
- c. Inni xalaaya walitti qab-ee jir-a  
 彼-nom 手紙-acc 集める-pfv jir-3sg.m.prs  
 「私は手紙を集めてしまっている。」
- d. Inni xalaaya walitti qab-aa tur-e  
 彼-nom 手紙-acc 集める-impfv tur-3sg.m.pst  
 「私は手紙を集めていた。」

<sup>17</sup>walitti は「一緒に」、qab-uu は「持つ」の意。

- e. Xalaaya-a walitti qab-am-ee jir-a  
手紙-nom 集める-pass-pfv jir-3sg.m.prs  
「手紙が集められている。」

- f. ?Xalaaya-a walitti qab-am-aa jir-a  
手紙-nom 集める-pass-impfv jir-3sg.m.prs  
「手紙が集められつつある。」

「変える (jijjir-uu)」は完結相は可能だが、非完結相はほとんど不可能である。しかし「少しずつ (suuta suuta)」などの漸次的表現がつけばおそらく可能なのであろう。どちらにしても完結相の方が使われやすい。過去の場合も同様である。「集める (walitti qab-uu)」に比べて、行為性が弱く、効果性が強いという判断をインフォーマントがして、非完結相の許容度が下がったものと思われる。したがってこのタイプの継続相の動詞の複合時制の完結相は可能であるが、非完結相は許容度を上げるために漸次的表現を要求すると思われる。

- (24) a. Inni yaada isaa jijjir-a  
彼-nom 考え-acc 3sg.m.poss 変える-3sg.m.prs  
「彼は彼の考えを変える。」
- b. ?Inni yaada isaa jijjir-aa jir-a  
彼-nom 考え-acc 3sg.m.poss 変える-impfv jir-3sg.m.prs  
「彼は彼の考えを変えつつある。」
- c. Inni yaada isaa jijjir-ee jir-a  
彼-nom 考え-acc 3sg.m.poss 変える-pfv jir-3sg.m.prs  
「彼は彼の考えを変えてしまっている。」
- d. ?Inni yaada isaa jijjir-aa tur-e  
彼-nom 考え-acc 3sg.m.poss 変える-impfv tur-3sg.m.pst  
「彼は彼の考えを変えつつあった。」

以上より継続相の動詞は、非完結相、完結相の使われ方に関して、当初の単純な予測に反して、複雑な様相を呈していた。まとめると、後状況に



結果性や効果性のない継続相は非完結相が可能で、完結相は不可能である。一方後状況に結果性や効果性のある継続相は非完結相同様完結相も可能となる。ただしその場合でも非完結相の方が使われやすい。しかし結果性や効果性にさらに漸次性が加わると、今度は完結相の方が可能となり、非完結相は漸次的表現の副詞を要求する。また行為性は明示的に影響していない。しかし程度差とはいえ、行為性が強い動詞ほど非完結相の許容度が高い。

#### 瞬間相

##### #V(min)# (左右閉瞬間相)

「会う (qunnam-uu)」

「会う (qunnam-uu)」の非完結相は一般に不可能だが、「何回も (yeroo heddu)」のような多回性を表す表現が共起すると可能となる。一方完結相は可能である。したがってこのタイプの瞬間相の動詞の複合時制は、完結相が可能であるのに対して、非完結相は一般に多回性の意味で使われる。

- (25) a. Inni Taaddassa kara gubba-tti qunnam-a  
 彼-nom ターダッサ-acc 大通り-loc 会う-3sg.m.prs  
 「彼はターダッサに大通りで会う。」
- b. \*Inni Taaddassa kara gubba-tti qunnam-aa jir-a  
 彼-nom ターダッサ-acc 大通り-loc 会う-impfv jir-3sg.m.prs  
 「彼はターダッサに大通りで会っている最中である。」
- c. Inni Taaddassa kara gubba-tti qunnam-ee jir-a  
 彼-nom ターダッサ-acc 大通り-loc 会う-pfv jir-3sg.m.prs  
 「私はターダッサに大通りで会ってしまっている。」

##### #V(min(act))# (左右閉行為性瞬間相)

「訪れる (dawwach-uu)」 「打つ (dha'-uu)」

「訪れる (dawwach-uu)」の非完結相は、「訪れた」後、表示状況において「今もそこにいる」ことが含意され、一方完結相は「訪れる」という行為の後、「今はもうそこにはいない」ことが含意される。どこの段階で「訪れる」という活動が終了するのであろうか。少なくともインフォーマントはこの動詞を瞬間動詞というより継続動詞として解釈しているようで

ある。また非完結相が多回性を示しにくいのは、一回の活動に時間がかかるからと思われる。しかしこのような例はむしろ例外的である。

- (26) a. Inni mana Taaddassa-a dawwat-a  
 彼-nom 家-acc ターダッサ-gen 訪れる-3sg.m.prs  
 「彼はターダッサの家を訪れる。」
- b. Inni mana Taaddassa-a dawwat-aa jir-a  
 彼-nom 家-acc ターダッサ-gen 訪れる-impfv jir-3sg.m.prs  
 「私はターダッサの家を訪れている。」
- c. Inni mana Taaddassa-a dawwat-ee jir-a  
 彼-nom 家-acc ターダッサ-gen 訪れる-pfv jir-3sg.m.prs  
 「彼はターダッサの家を訪れ終わっている。」

「打つ (dha'-uu)」の場合には、非完結相は一般に不可能だが、多回性を表す表現「何回も (yeroo heddu)」があると使うことが可能となる。一方完結相は可能である。したがってこのタイプの瞬間相の動詞の複合時制は完結相が可能で、非完結相は一般に多回性の意味で使われる。

- (27) a. Inni isii tontonmo-dhaan dha'-a  
 彼-nom 彼女-acc げんこつ-instr 殴る-3sg.m.prs  
 「彼は彼女をげんこつで殴る。」
- b. \*Inni isii tontonmo-dhaan dha'-aa jir-a  
 彼-nom 彼女-acc げんこつ-instr 殴る-impfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は彼女をげんこつで殴っている。」
- c. Inni isii yeroo heddu tontonmo-dhaan dha'-aa jir-a  
 彼-nom 彼女-acc 何回も げんこつ-instr 殴る-impfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は彼女を何回もげんこつで殴っている。」
- d. Inni isii tontonmo-dhaan dha'-ee jir-a  
 彼-nom 彼女-acc げんこつ-instr 殴る-pfv jir・現在  
 「彼は彼女をげんこつで殴ってしまっている。」

## #V(min(act))#eff ( 左右閉行為性効果性瞬間相 )

「 破る (tarsaas-uu) 」 「 落とす (gat-uu) 」

「 破る (tarsaas-uu) 」 は非完結相および完結相とも可能だが、非完結相の場合多回性の方が使いやすい。一方「 紙が破ってある 」のような表現はオロモ語にはない。「 紙 」を主題にする場合には、受動態になり、その場合非完結相は不可能で完結相は可能である。非完結相では「 動作主が破っている 」という行為の方に話題の中心があるのに対して、受動態では「 破った対象である紙 」が主題であるからである。

- (28) a. Inni waraqaa ni tarsaas-a  
 彼-nom 紙-acc focus 破る-3sg.m.prs  
 「 彼は紙を破る。 」
- b. Inni waraqaa tarsaas-aa jir-a  
 彼-nom 紙-acc 破る-impfv jir-3sg.m.prs  
 「 彼は紙を破りつつある。 」
- c. Inni waraqaa tarsaas-ee jir-a  
 彼-nom 紙-acc 破る-pfv jir-3sg.m.prs  
 「 彼は紙を破ってしまっている。 」
- d. Inni waraqaa yeroo hedduu tarsaas-aa tur-e  
 彼-nom 手紙-acc 何度も 破る-impfv tur-3sg.m.pst  
 「 彼は紙を何度も破っていた。 」
- e. \*Waraqaa-n tarsaas-am-aa jir-a  
 紙-nom 破る-pass-impfv jir-3sg.m.prs  
 「 紙が破られつつある。 」
- f. Waraqaa-n tarsaas-am-ee jir-a  
 紙-nom 破る-pass-pfv jir-3sg.m.prs  
 「 紙は破られてしまっている。 」

同様に「 落とす (gat-uu) 」 は非完結相では「 何回も (yeroo heddu) 」 のような多回性を表す表現と共起した場合に可能となる。一方完結相は可能

である。したがってこのタイプの瞬間相の動詞の複合時制は完結相が可能で、非完結相は一般に多回性の意味で使われる。

- (29) a. Inni skriptoo ni gat-a  
 彼-nom ペン-acc focus 落とす-3sg.m.prs  
 「彼はペンを落とす。」
- b. \*Inni skriptoo gat-aa jir-a  
 彼-nom ペン-acc 落とす-impfv jir-3sg.m.prs  
 「彼はペンを落としている途中である。」
- c. Inni skriptoo gat-ee jir-a  
 彼-nom ペン-acc 落とす-pfv jir-3sg.m.prs  
 「彼はペンを落とし終わっている。」

#V(min)\*res ( 左閉右開結果性瞬間相 )

「混じる (walitti mak-uu)」「始まる (jalqabam-uu)」  
 「混じる (walitti mak-uu)」の非完結相は使われにくい。「少しずつ」のような漸次的表現があれば可能なようだが、無標な状態では不可能である。一方完結相は可能である。

- (30) a. Cuunfaa-n walitti mak-a  
 ミックスジュース-nom 混じる-3sg.m.prs  
 「ミックスジュースが混じる。」
- b. \*Cuunfaa-n walitti mak-aa jir-a  
 ミックスジュース-nom 混じる-impfv jir-3sg.m.prs  
 「ミックスジュースが混じっている。」
- c. Cuunfaa-n suuta suuta walitti mak-aa jir-a  
 ミックスジュース-nom ゆっくり 混じる-impfv jir-3sg.m.prs  
 「ミックスジュースがゆっくり混じっている。」
- d. Cuunfaa-n walitti mak-ee jir-a  
 ミックスジュース-nom 混じる-pfv jir-3sg.m.prs  
 「ミックスジュースが混じってしまっている。」

一方「始まる (jalqabam-uu)」は、非完結相では「今まさに始まろうとしている」という意味、あるいは「何度も開催される」という多回性が含意されているなら可能となるけれども、一般に不可能である。一方完結相は無条件で可能である。過去の非完結相も多回性を表す表現があれば可能だが、無標では不可能である。したがってこのタイプの瞬間相の動詞の複合時制は完結相が可能で、非完結相は一般には不可能である。

- (31) a. Galma sinemaa Asalla-tti walgahii-n jalqabam-a  
シアターホール アサラ-loc 会議-nom 始まる-3sg.m.prs  
「アサラのシアターホールで会議が始まる。」
- b. ?Galma sinemaa Asalla-tti walgahii-n jalqabam-aa jir-a  
シアターホール アサラ-loc 会議-nom 始まる-impfv jir-3sg.m.prs  
「アサラのシアターホールで会議が始まろうとしている。」
- c. Walgahii-n yeroo lammaafa jalqabam-aa jir-a  
会議-nom 2回目 始まる-impfv jir-3sg.m.prs  
「会議は第2回目が始まっている。」
- d. Galma sinemaa Asalla-tti walgahii-n jalqabam-ee jir-a  
シアターホール アサラ-loc 会議-nom 始まる-pfv jir-3sg.m.prs  
「アサラのシアターホールで会議が始まっている。」
- e. Walgahii-n yeroo lammaafa jalqabam-aa tur-e  
会議-nom 2回目 始まる-impfv tur-3sg.m.pst  
「2回目の会議が始まっていた。」

#V(min(act))\*res ( 左閉右開行為性結果性瞬間相 )

「借りる (ergifach-uu)」

「借りる (ergifach-uu)」の非完結相は一般に不可能である。現在の非完結相の場合、インフォーマントによると「本を借りる」という手続きが長ければ可能らしい。また過去の非完結相の場合、例えば「彼女に無許可で本を借りている」というような状況ならば可能であるが、やはり一般に不可能である。一方完結相は可能である。したがってこのタイプの瞬間相の動詞の複合時制は完結相が可能で、非完結相は一般に不可能である。

- (32) a. Inni isiirraa kitaaba ni ergifat-a  
 彼-nom 彼女-abl 本-acc focus 借りる-3sg.m.prs  
 「彼は彼女から本を借りるつもりだ。」
- b. \*Inni isiirraa kitaaba ergifat-aa jir-a  
 彼-nom 彼女-abl 本-acc 借りる-impfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は彼女から本を借りつつある。」
- c. Inni isiirraa kitaaba ergifat-ee jir-a  
 彼-nom 彼女-abl 本-acc 借りる-pfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は彼女から本を借りている。」
- d. Inni isiirraa kitaaba ergifat-aa tur-e  
 彼-nom 彼女-abl 本-acc 借りる-impfv tur-3sg.m.pst  
 「私は彼から許可なく本を借りている。」

#V(min(act))\*eff ( 左閉右開行為性効果性瞬間相 )

「送る、届ける (erg-uu)」「折る (dachas-uu)」「拾う (kas-uu)」

「送る、届ける (erg-uu)」は非完結相で漸次的表現と共起すれば可能かもしれないが、一般に不可能である。一方完結相は可能である。「手紙が送ってある」のような表現はオロモ語にはない。「手紙」を主題にする場合には、受動態となり、その場合は非完結相は不可能で完結相が可能となる。非完結相が「動作主が送っている」という行為の方に話題の中心があるのに対して、受動態では「送った対象である手紙」が主題であるからである。

- (33) a. Inni xalaaya Japani-tti ni erg-a  
 彼-nom 手紙-acc 日本-loc focus 送る-3sg.m.prs  
 「彼は手紙を日本に送りつもりだ。」
- b. \*Inni xalaaya Japani-tti erg-aa jir-a  
 彼-nom 手紙-acc 日本-loc 送る-impfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は手紙を日本に送りつつある。」

- c. Inni xalaaya Japani-tti erg-ee jir-a  
 彼-nom 手紙-acc 日本-loc 送る-pfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は手紙を日本に送ってしまっている。」

- d. Xalaaya-n Japani-tti ergam-ee jir-a  
 手紙-nom 日本-loc 送る-pfv jir-3sg.m.prs  
 「手紙が日本に送られている。」

また「折る (dachas-uu)」は非完結相で漸次的表現と共起すれば可能かもしれないが、基本的には不可能である。一方完結相は可能である。

- (34) a. Inni gaazetaa dachas-a  
 彼-nom 新聞-acc 折る-3sg.m.prs  
 「彼は新聞を折る。」
- b. \*Inni gaazetaa dachas-aa jir-a  
 彼-nom 新聞-acc 折る-impfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は新聞を折りつつある。」
- c. Inni gaazetaa dachas-ee jir-a  
 彼-nom 新聞-acc 折る-pfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は新聞を折ってしまっている。」
- d. \*Inni gaazetaa dachas-aa tur-e  
 彼-nom 新聞-acc 折る-impfv tur-3sg.m.pst  
 「彼は新聞を折りつつあった。」

同様に「拾う (kas-uu)」は漸次的表現と共起すれば可能かもしれないが、一般に不可能である。完結相は可能である。したがってこのタイプの瞬間相の動詞の複合時制は完結相が可能で、非完結相は一般に不可能である。

- (35) a. Inni waraqaa ni kas-a  
 彼-nom 紙-acc focus 拾う-3sg.m.prs  
 「彼は紙を拾うつもりだ。」

b. \*Inni waraqaa kas-aa jir-a  
 彼-nom 紙-acc 拾う-impfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は紙を拾いつつある。」

c. Inni waraqaa kas-ee jir-a  
 彼-nom 紙-acc 拾う-pfv jir-3sg.m.prs  
 「彼は紙を拾ってしまっている。」

d. \*Inni waraqaa kas-aa tur-e  
 彼-nom 紙-acc 拾う-impfv tur-3sg.m.pst  
 「彼は紙を拾いつつあった。」

以上より瞬間相の動詞は、一般的に完結相が使われやすい。一方非完結相は、右が閉じている場合には多回性として解釈される。また右が開いている場合には一般に不可能である。

## 6 まとめ

本稿はオロモ語のテンス・アスペクト体系の解明のための出発点として複合時制のアスペクト的対立を取り上げた。複合時制の *deemaa jira* (非完結相) と *deemee jira* (完結相) はごく一部の存在動詞を除いて、形態的にはすべての動詞に首尾一貫して存在している。つまりこの複合動詞の本質は動作が完結しているか完結していないかというアスペクト的対立に基づいているのである。このことを語彙アスペクト毎に逐一検証することで、その基盤が確固たるものであることを証明した。

しかしその一方でその振る舞い方は一様ではなく、20の語彙アスペクト毎に検討してみたところ、次のことが判明した。

1. 状態相の動詞はいずれも非完結相、完結相とも複合時制が使われない。
2. 状態継続相の動詞は非完結相が不可能であるのに対して、完結相は一部可能である。
3. 継続相の動詞は、後状況に何も無いタイプは非完結相が可能なのに対して、完結相は不可能である。一方後状況に効果性や結果性などがあるタイプは非完結相および完結相両方可能となるが、非完結相の方が



使われやすい。しかし後状況があるタイプのうち漸次性の特徴をもった動詞は完結相の方が使われやすくなり、逆に非完結相は漸次的表現の副詞を要求する。

4. 瞬間相の動詞は一般に完結相が可能である。一方非完結相は、右が閉じている動詞の場合には多回性として解釈されるけれども、右が開いている場合には一般に非完結相は不可能である。

形態的な違いに基づいてその意味を包括的に指し示しただけでは、言語が時間をどのように捉えているかは見えてこない。そこで本稿ではきめ細やかな語彙アスペクトの違いから出発した。その際援用した金子 (1995) の語彙アスペクトの分類は今回取り扱った複合時制の記述にとって十二分のものであった。しかし本稿で取り扱った範囲は極めて限定的なものである。さらに調査を進めることで、オロモ語のテンス・アスペクト体系の全貌が明らかになることが期待される。本稿をオロモ語の時間表現の記述の出発点としたい。

#### 【参考文献】

- Ali, M & A. Zaborski. (1990) *Handbook of the Oromo Language*. Franz Steiner Verlag Stuttgart.
- Comrie, B. (1976) *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Dahl, Ö. (1985) *Tense and Aspect Systems*. Oxford: Basil Blackwell.
- Gamta, T. (1989) *Oromo-English Dictionary*. Addis Ababa University Press.
- Gragg, G. (1976) 'Oromo of Wellga', In M. L. Bender (ed.), *The non-Semitic Languages of Ethiopia*. 166-195. The African Studies Center, Michigan State University, East Lansing, Michigan.
- Gragg, G. (1982) *Oromo Dictionary*. The African Studies Center, Michigan State University, East Lansing, Michigan.
- 金子亨 (1995) 『言語の時間表現』 ひつじ書房
- Mardaasaa, Q. (1993) *A Short Guidance to the Oromo Language (Afaan Oromo)* Finfinnee.

Owens, J. (1985) *A Grammar of Harar Oromo*. Helmut Buske Verlag Hamburg.

Stroomer, H. (1987) *A Comparative Study of Three Southern Oromo Dialects in Kenya*. Helmut Buske Verlag Hamburg.

Tucho, Y., Zorc, R. & E. Barna. (1996) *Oromo Newspaper Reader, Gramamar Sketch, and Lexicon*. Dunwoody Press. Kensington, MD.

## Compound Tenses in Oromo

Hideyuki INUI

The aim of this paper is to point out the aspectual opposition of compound tenses in Oromo.

First, I will describe compound tenses. Compound tenses are formed by means of the main verb with the auxiliary verb *jira* 'exist' or *ture* 'was'. In this way an imperfective aspect and a perfective aspect are formed. The imperfective aspect (*deemaa jira/ture* (*deem-uu* 'go')) can involve a durative incomplete activity, while the perfective aspect (*deemee jira/ture*) can involve a bounded, completive event. This aspectual opposition (Perfective versus Imperfective) plays a major role in the tense-aspect system.

Second, I will discuss markedness of compound tenses. Every verb can be classified into some lexical aspects (or aktionarten), such as stative, stative-durative, durative and punctual. According to this lexical aspects (or aktionsarten), it is possible to determine the marked member of the Perfective / Imperfective opposition in Oromo.

inui@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp